

スクミリンゴガイ情報第2号（水稻）

令和6年11月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

発生ほ場率が高いです 冬期対策を実施し、越冬量を減らしましょう

1 本年の発生状況

7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は、35.4%（27.6%、前年17.7%）と、過去10年間で最も高い状況でした。

2 スクミリンゴガイの越冬について

スクミリンゴガイは水温が14℃以下になると活動を停止し、水田や水路で土中に潜って越冬します。翌春、気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始します。田植え直後にイネを食害するのは、前年から水田内で越冬している個体であると考えられます。これらのことから、本田及び水路における越冬個体への対策が重要です。

3 防除対策

(1) 冬期耕うん

スクミリンゴガイを物理的に破砕し、越冬量を減らすため、土壌が乾燥して硬い厳冬期（1～2月）に耕うんを行いましょう。防除を目的とする際は、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くし、土壌を細かく砕くように耕うんすることで破砕効果が高まります。また、厳冬期に行うことで、貝を寒風にさらし、殺貝効果を高めることができます。

(2) 水路の泥上げ

スクミリンゴガイは寒さに弱い※ため、厳冬期（1～2月）に水路の泥上げを行い、寒風にさらすことで越冬量を減らすことができます。また、水路の泥上げは越冬場所をなくすことや、同時に雑草が取り除かれることで、翌年の餌をなくすことにもつながります。局所的でなく、地区全体で取り組むと効果が高まります。なお、掘り上げた泥については、未発生ほ場に持ち込まないように注意してください。

※0℃環境下の場合、20～25日で死亡。

(3) ほ場の均平化

スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限されます。一方、凹凸があるほ場では、田面の深いところで貝が活動しやすく集中的に食害が生じます。ほ場の傾斜や凹凸をなくすため、ほ場の均平化を行いましょう。

4 留意事項

作業後の農業機械に本種が付着し移動することで、発生範囲が拡大するおそれがあります。作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、農業機械を移動させる際は泥をしつかりと洗い落としましょう。また、今年スクミリンゴガイの被害が見られたほ場では、移植期の薬剤散布など他の防除技術の組み合わせを検討しましょう。

5 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、令和4年3月31日発表の「スクミリンゴガイ防除実証試験成果の紹介（水稻）」や、農林水産省が公開するマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>）（令和6年4月改訂）を参考にしてください。

冬期に耕うんを行うことで、他の病害虫における次作の発生量を減らすことにもつながります。詳しくは、10月4日発表の「水稻の秋期管理情報第1号（イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、ニカメイガ）」を参照してください。